広報こすど
発行所 小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
印刷発行 編集人 矢部藤三郎

改選後の初議会終わる

五月臨時町会

選挙後初の町議会が去る二十一日、二十四日両日にわたり召集され全議員二十六名が出席して二十一日午前十時から町長病気欠席のうちに開会された。

初町会のためか今まで議長の開会の宣言があり議長の選挙に入った。

議長　白井門蔵
副議長　渡辺助一郎

議席順序と所属常任委員会及び委員長並副委員長は次の様である。

一番渡辺助一郎　社厚
二〃梅津英五郎　総文
三〃佐藤八十八　経建
四〃斎藤伝松　社厚
五〃本間安一郎　社厚
六〃保科清作　社厚
七〃梅津実　総文
八番木村熊五郎副総文
九〃丸山愛一郎　総文
十〃近藤義雄　総文
十一〃新井田七郎　総文
十二〃新井田辰次　経建
十三〃壺屋徳一長総文
十四〃松尾健一　経建
十五〃高野良雄副経建
十六〃高山三治　経建
十七〃渡辺進　総文
十八〃栄森一治　社厚
十九〃荒木春一　経建
二十〃栄森作司　経建
二一〃青木堅司副社厚
二二〃吉井喜代太長経建
二三〃森田吾一長社厚
二四〃中野一雄　経建
二五〃江川徳夫　社厚

総文　総務文教常任委員会
経建　経済建設常任委員会
社厚　社会厚生常任委員会

議会運営委員
委員長　栄森作司
副委員長　近藤義雄
委員　佐藤八十八
栄森一治　吉井喜代太
森田吾一　壺屋徳一

臨時出納検査立会議員
高山三治　近藤義雄
新井田辰次

監査委員

議会代表　江川徳夫

明けて二十四日町長の病気も回復し、新村山町長の町政構想の一端が被露され和やかなうちに初議会は終わった。

構想の一端は次の通り

一、役場事務機構改革及び人事異動の件
一、中学校の特別教室の増築計画の件
一、山の手地区の簡易水道設置の件
一、本年度の舗装計画及び道路改修事業について
一、一般事業とそれに伴なう財政計画等について町長提案議案
一、由の手地区簡易水道敷設について

本町は保健衛生上特殊な地区である大字矢代田、鎌倉新田、天ケ沢新田部落に衛生的環境保全のため昭和三十八年度より総工費約六千万円で着工することに議会の同意を得た。

今後の工事計画についてまず第一歩として

一、特別会計の設定
二、予算の編成
三、起債借入手続の申請

又補助金等の交付申請

四、三部落の給水条例の設定と関係規程の設定
五、地元負担に関する分担金条例の設定とその公聴会の開催計画など

以上の様な話し合いをし五月臨時議会を終了した

いつもおくれる いやな人

新生活入選標語

役場の電話は各係の机の方へ

役場の電話及び有線等の配置と事務内容は次のようですができるだけ事務内容にあった電話の使用を願います。

電話　二七番
町長室（助役）
建設課
土木、水道関係
住民課の内
国民健康保険（税は除く）保健衛生、国民年金、転出証明、厚生関係

電話　一二七番
総務課
庶務、消防係、選挙、税務、
議会事務局
経済課
農林、畜産、商業、工業、統計
農業委員会
住民課の内
戸籍、住民登録その他
戸籍関係
有線放送
三〇番　役場事務一切
三五番　役場事務一切
三四番　戸籍係

夜間専用の電話については次の通りです

電話　二七番
有線　三五番
教育委員会
電話　二七〇番
有線　三六番
公民館
電話　二七〇番
有線　三六番
消防団本部
電話　七七番
有線　三三番
水道部
電話　一一番
有線　三七番

話し合いで新生活を

今年の目標

さる五月十三日公民館二階で昭和三十八年度、小須戸町新生活運動協会の総会が開かれた。前年度の事業報告、役員改選があり、新年度の事業及び目標などが決められました。

私達の町における新生活運動も五年目を迎えることになりました。

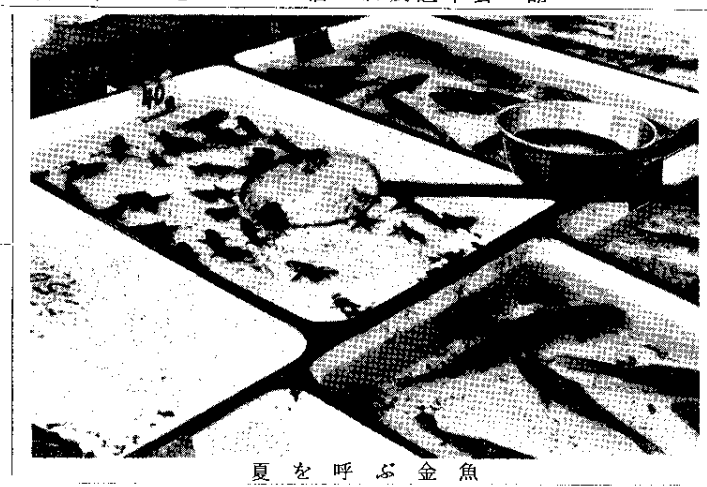
すべてが話合いによって身近な問題から、一歩一歩つみあげて行くことをこの運動の原則としているもので、話合いグループ（訪問集会）が山之手地域においてかっぱつにもたれるようになり、明るい町づくりの成果をあげられておられることは喜びにたえません。

この度の総会で今年の運動目標が樹立されました。この運動目標達成のためみなさんの一層の御協力をお願いいたします。

運動目標

一、かっぱつな話合い活動をいたしましょう。
一、時間励行を徹底いたしましょう。
一、町をきれいにいたしましょう。
一、祝日に国旗をかかげましょう。

◎集会時間がてっていい出来たかどうか、手初めに公民館に於ける諸集会について、六月から記録をとることになりました。



夏を呼ぶ金魚

知っておりますか

農地法のはなし

（その一）

一、農地を売りたいのですが……だれに売ったらよいのですか

農地法では農地（採草放牧地についても同じです）を買うことができる人を次のように制限しております。

(1)農地を買ってそれを自分で耕作するのでなければなりません。

(2)現在耕作している面積が三反歩（所によつて多少異なります）以上でなければなりません

(3)現在耕作している農地と貸しつけしている農地とを合わせた面積が定められた面積をこえた場合は、原則として許可されないことになっていますが、買う人が主として自家労力でうまく経営できる場合はその制限面積をこえても買うことができます。

少なくともこれら三つの条件のいずれにもあてはまらなければ、その農地の小作人でこれらの条件にあてはまる人しか買えないことになりますし、自作地であれば、これらの条件にあてはまる人なら、だれでも買うことができます。

こうして買う人がきまれば売る人と、買う人と双方いっしょに書類を作って知事の許可を受ける。許可がなければ売ることも、所有権移転の登記もできません。

二、小作人が前の条件にあてはまらない場合、その小作地はどうなりますか

前にもお話ししたとおり、その小作人は農地を買うことはできませんが国から買いとってもらうことはできます。その場合の買取価格は、小作料の十一倍ときめられています。買いとってもらう方法については、農業委員会にご相談下さい。

三、農地を息子の名儀に書きかえることができるでしょうか

この場合も(1)、(2)、(3)の場合と同じように考えられますから、買うことのできる条件にあてはまる農家でいっしょに生活し、耕作に従事している息子さんなら、自作地についてはできません。

また息子さんが分家しているときは、一、の他人に売る場合と同じことになります。いずれにしても知事の許可を受けなければなりません。

くわしいことは町役場内農業委員会でおたずね下さい。

議会議員に望む

論壇

いらばれてめでたく選挙が終わった。

そこで議員のみなさんに望むことは、運動中のことを忘れず思い思いのことをいって、町を良くする気持で燃えていたことは事実であります。みなさんの政見を述べられたことはやってもらいたい、いや必ずやってもらうように努力してもらいたいものです。

また私たちが議員にお願いしたいことは、

一、あらゆる会議、集会に時間を厳守してもらいたい。

二、議会には必ず出席してもらいたい。

三、議案議事に対しては必ず各自の意見を持ちより発表していただき他の議員の賛成議員でないようにつとめてもらいたい。

四、私事と公事と区別して私事にこだわらず、一丸となって町つくりに努力してもらいたい。

五、選挙当時のことを頭において、責任を持って努力してもらいたい。

まだお願いはありますがまた後で、お願いしたいと思います。

とにかく燃えに燃えた選挙であったことは事実でありました。あっといわれる程ファイトを燃やしてもらうことを町民は希望しています。幾多の行政面で、対し難いことも無限でしようが、御苦労様ですが必ずやって行かれるよう重ねて希望するものです。（一選挙民）

小須戸風土記

明治大正 越後侠客物語

その八

柏大治

維新の頃まで名を売った沼垂の今福一家の身内で、酒屋の戸松珍平は当時新潟から三条下の信濃川筋では、泣く児もだまると鳴らした親分だがその珍平と従弟でしかも新津の奥村三五郎、割野の高橋嘉太郎、加瀬の勘兵衛とならんで珍平一家の四天王だと評判をとった戸松定治が、その時分小須戸地方一円を縄張りにして勢力があった。身長は五尺たらずだが横に大きく俗に定親分といってたいしたものだった。鵜出古木の能登さん附近に小料理屋のようなことをしていたが、常に子分の五、六人は遊ばして置いて毎晩のように、子分をつれて戸石、小合、臼井と近郷へ盆ござをおろしに出かけた。

当時はどんな者でも博奕をしないものはないくらい流行していたから、博奕をやることは悪いと思っても、それ程世間の者は不思議に思ってはいなかった。警察でも、多少のことは見て見ぬ振りをしている。現行犯でもなければつかまるようなことがないから、これを良いことにして、定一家では法津の目をくぐり夜の顔役としてはびこって素人玄人とをとわずに、カスリを取っていた。日頃から一家の行動を心良く思っていなかった森田喜三次は、これがしゃくにさわってたまらない。腕は北辰一刀流の極意をきわめ自信満々でその上、度胸の良い田巻兵市と兄弟分の盃を交わしたから加茂赤岩一件以来のうっぷんが早くも戸松定治に向けられ「愈々俺の初舞台が来たぞ。まず、手近の戸松定治にひとあわふかしてやろう」と喜三次はにんまり笑ってその機会を狙った。

一方定親分は弥七どんの若い衆がそんなにたいそれた考えを持っているとは、夢にも思っていません。近頃金回りが良いものだから、定親分は上気嫌で自宅で子分をあいてに、今晩の盆ござをおろす話しをしているところへ、俗に藤公という子分が肩いからして表から入って来た。

「親分――今日は珍しい話しがありますぜ」
「なんだ」
「親分そんなにあわてなさんな、おもしろいですぜ」
「なにがおもしろいのだ――この野郎話しを早くしないか」
「それがね――親分に三年の年期で弟子になりたいというのです。警察の危介に三度なったというが、やくざがおもしろくて警察を出ると、とたんにどうしても堅気になれないという訳で――」
「ほう、妙な男もいたものだ――俺もあちこちへ行くが博奕打の弟子入りなんて、聞いたことはないな――」
「だからおもしろい話しというじゃありませんか」
「その男は一体どこの者で何をしている」
「くわしいことは解らないが、今、上の尾崎屋に泊っていますから逢ってくれますか――」
「おもしろそうな男だから逢って話しをしてみたいなあ――」

と戸松定治は弟子入りをしたいという男があるので、鼻をうごめかして嬉しそうな顔をしている。

気の早い藤公は、
「親分その男をすぐつれて来ますよ」
と表へ飛び出した。途中でばったり藤公は喜三次に逢った。
「おい、馬鹿にいそがしそうだなあ――相変わらず良い仕事があるかい――」
「うん、今晩は戸石で相当な賭場が開帳されるよ――なんでも白根の電信一家も来るというから遊びに来なさいよ」
と藤公は別れた。喜三次は「よし今晩こそは定親分の鼻をあかしてやろう」と定一家の行動をさぐっておいて、夕暮れになるのを待った。電信大作は江戸の三段目まで行った元力士で、三条の長谷川仙念とは兄弟分のあいだから、白根の親分で世間にも知られて、子分も相当いる電信一家も戸石に乗りこむということで、家家にはあんどんの火がついたころになると定一家では、今晩はみんな少ししっかりやってくれ、と戸松定治を先頭に子分六、七人を引きつれて、手に手に小田原提灯を持った一行は、住吉小路を通って上の渉場から舟に乗ろうとやって来た早くもこれを見た喜三次は「細工はりゅう〳〵待っていました」と仕事に取りかかった。どこの家にも当時臭い肥桶が家の装飾品のようにして備えつけられている。これに目をつけ二間程もある縄の一方をすぐ前にあるなるべくたんまり溜った肥桶に結び、一方のはじを住吉神社の松の大木にしばり喜三次はすばやく姿をかくして待った。そんなこととは知らない定親分は

「今晩はばかに暗い晩だ」
と子分を従えゆうゆうと肩で風を切ってやってきた。

続く

青年の結集で よりよい活動を

今年の連合青年団

青年男女の皆さんへ

私はついこの間皆さんのお手元に、これからの青年団の主旨、方針を述べた趣意書をお届けしましたが、読んで頂けましたでしょうか。

実は私自身後で気がついたのですが、その内容よりもまず「この野郎はどこのどいつでどんな奴だろう」とお感じになったのではないかと思い、只今この紙面を拝借して簡単に自己紹介を申し上げます。私は昭和九年生れで既に一児の親であり農業をしております。ウデコキで生れて育ち、小須戸中学は皆さんと同窓生であります。私は以前八年程他所の地で道草を喰って再び元の地に戻りそれから三年程になります。卓球を楽しまれる人とは顔馴染なのですが大部分の人はご存じないと思います。

私は幸い若い人達と気が合って大変良い友達に恵まれて皆と会うのが何よりの楽しみとなっています。皆さんもきっとそうだろうと思います。

私は友人との交際でこんなことを感じています。それは私達の特権である若さから生み出される…

×健全な理想と情熱と活動力を誰しもが持っていると云うことであります。

×皆さんも自分の思うことと即ち教養面、経済面、政治や社会面等についての友と語り合っていることと思います。

しかし現代は著しく発展しています。私達はより多くの、そして種々の職業の、年令の、階級の、また他町村、都市の人々と語り、見たりして視野を広めねばならないと思います。

私達の年代は最も思考力、活動力の旺盛な年代ですから、次代を背負う一員として、私達の夢や希望や又いろいろな問題を検討、研究して、私達が一人前になり、先人からのバトンタッチを受けた時に、胸をはって引き受けられるように勉強しておく必要があるのではないでしょうか。

さらに青年団を引退された方、未加入の方、団員の人達。連青では皆さんの力を必要としています。心気一転積極的に参加下さるようお願い致します。

婦人の皆様へ

私達は自分自身や自分達の環境を皆が納得出来るものとしてゆきたいと望んでおります。それには私達に最も密接なものを研究改善してゆきたいと思っております。私達は皆さんと意見を交し、また御指導を仰ぐ場と機会を望んでおります。新時代の生活を造る為にぜひ御協力をお願い致します

先輩古老各位へ

私達は社会の種々のことについてあまり詳しく知りません。しかし現代は私達青年の力を必要としています。政治、経済、文化は大スピードで回転しています。私達は新時代を背負う一員として、時代に遅れず、また足元のしっかりした研究をしたいと思います。各位の絶大なる御指導をお願いします。

青年学級の御案内

さる五月二十日より小須戸町青年学級が開校になっておりますが、ここで広く一般より募集することになっております。今年度の学級の特色としては、一般学級として出発、内容についても、青年として知っておくべき点というものを要約して学習を進めて行くことにしています。現在約二十名たらずではありますが青年のみなさんより一人でも多く参加してもらい今年度の青年学級を進展させて行きたいと思います。今年度の学習予定表は公民館にあります。希望者は申し出てください。電話は二七〇番です。

尚学習日は、毎週、月曜日夜七時三〇分よりです。

羽田空港にて（小須戸中写真クラブ撮）

なぐさめと はげましの木を病院へ

雨の晴れ間に病室をぬけ出して病院のまわりを歩くのが好きである。きりなしに通る自動車が砂塵を巻き上げることもなく雨にほこりも洗い流されて若葉がすがすがしいまでに目にしみいる。

病院前に生えている木は、この病院が建つというので記念に植えられた木であった。

トラックやリヤカーに積んで、子どもたちにも引かせたり、大人も大わらわとなって、あっちの町内からも、こっちの町内からも献木の行進であった。

なかにはアルコールのつまった大わらわが赤いかおして、のぼり鉢巻でタコの八ちゃんよろしく中の上で音頭をとりながらの陣頭指揮も人目をひいた。

私たちの町内からも桜の木が二本献木されたのだった。私の背にも足りないものだったが、あの木か、この木かとさがしてみるが見当たらない。大方枯れてしまったのかも知れない。根つかずに枯れたのもあったと聞いたから。

つい先日まで、あわいみどり色であった新芽が日増しに濃さをましていく。病める者には、乙女のようにやさしく、また限りなく生のよろこびを感じさせてくれる。

一日一日青葉の茂りと成長していくこの生命力の偉大さは、いい知れない希望と、なぐさめをあたえてくれるかのようである。

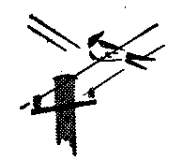
一枚二枚つまんで手のひらにのせてみた。青白い手に映えて、なんとやわらかく、美しく、そしてほのかな若葉の香よ！

土からは養分を、太陽から光と熱をほしいままにうけて、幹から枝へ、枝からこの美しく茂れる青葉へと、このいとなみに、自分も早く健康になりたい、そして思うぞんぶんに働いてみたいと、夢はこの木立の若葉によせてひろがる。

健康な者でも、新緑の時期をえらんで慰安旅行にでかけていくのも、生気をよみがえらす若葉にあこがれてであろう。

病院生活をしている私たちみたいな者には、せめても病舎の周囲が、緑や又紅葉に変わる木立の林であってくれたらと願っている。病舎が丸見えでは、また病室から眺めてもさっぱりけいでは一層病を重くするようにも思われる。町民のあたたかい献木運動ができぬものだろうかと、一筆投稿してみました。

なぎさ あした 天気にしておくれ



旅行やハイキングの前の日となると、子どもたちは心が落ちつかない。楽しみにして指折り数えて待ちに待った日であるから無理もない。

これは、子供だけのことでなく、大人といえども同様であろう。

しかし、いくらかわいらしい子どもが願おうとどんなに大人が手を合わせて祈ろうと、自然のお天気は人間の気持に関係なく降ることもあれば、晴ることもあり、また照ることもある。

それなのに、時によれば人はまた、「どうかあすは降りますように……。いや、できることなら、きょう今からでも降ってもらいたい」と頼むこともある。

だが、これも思い通りにうまくいってくれないのが、昔も今も変わりない事実である。

人間は全く自分勝手なもので、その時その時の自分の考えに他人までも従わせようと強引な説得をやるとか、自分の頼みがきき入れられないからといって相手をおどしたり、あるいは自分の思うままにならないといっては、暴力やことばで他人を傷つけるなど……。

だが、いくら人間どうしでも十人十色、顔が違えば気持も違っているのが当然だ。天気と人間はどではないにしても、やはり自分がどう思おうとどうにもならないところが他の人にあるのだというように考えることからお互いが人間どうしとして親しくつきあえる道が開けてくるのではないだろうか。

もちろんそこには、まず自分自身が自分自身を徹底的（この徹底がむずかしいのだが――）に見つめるとともに、現在の自分の考えを相手によく理解してもらう（おしつけでなく）ように努力することが大切である。われわれはややともすると自分自身を深く考え自身のわがまゝな希望かどうかと深く考えてみることなしに、他にのみ求めおしつけることの多いことから幾多のいさかいや争が生ずる場合のあることを十分に反省すべきであろう。

電話のアキ番が60

申込みは早目に

お仕事や文化生活にはなくてはならないものが電話です。ところがその電話が割当てが少いためなかなか思うようにつけられなくて困っていました。先代五十嵐局長が電話拡張に非常な努力をされたのが実を結んで38年度の小須戸局新設電話の割当ては60を確保することができました。電話をおつけになるならこの際です。市内外のケーブル工事も六月いっぱい位の完工予定で進んでいますし、交換台も二台増設済みで、準備はバンバンです。こんな好い機会は今后無いかもしれません。二、三年たったら……などとお考えの向も、先を見込してこの際お申込になって下さい。六十個の新設電話が、皆さんのお宅で働きたくてウズウズして待っています。

なお料金等は左記のとおりです。

新設の料金

	加入料	設備料	債券引受額	計
独話 単電	300	10.000	80.000	90.300
同話 共電	300	10.000	10.000	20.300

共同電話はお互いの距離が800米以内に限ります。また利用度数の多い人は不向であり、信号の分離が不完全であるなどの欠点があります。

（注　本年度の割当が多かったのは、昨年度に市内交換台2台増設と今回のケーブル線増設工事などが特殊事情によるものです。来年度からはまた割当ての数が少くなります。　小須戸郵便局長

【釣だより】 ヘラ鮒のつり場

五月もいつのまにかすぎ去り吹く風もすっかり夏めいてまいりました。堀には用水が入り田植も終わりをつげるころと思いますが、水が大分濁っているので真鮒釣りには悪条件のようです。

しかし用水が落着き水温が上昇、六月上旬以降の小堀では、小物の大漁が各地で見られることと思います。

○今井、漆山○西笠巻裏○国常堀の頭○北谷地（三丁継）万年○和田裏鐘目などの各小堀

へら鮒は春のシーズンも終わりに近づきましたがまだまだ大物（尺以上）大漁（貫匁釣り）が各地で見聞きされます。豪雪のためシーズンが一―二週間遅れましたが、四月中旬より五月下旬が最適のようです。へラ鮒は三年で三〇糎前後となり、生餌を好まずかつ貪欲で中層を同年魚で群れをなして回遊する習性があるので、尺鮒が釣れると数十匹も釣れることもあります。

五月五日亀田北山の池で四～五〇名の大公望中へラ研究会々員が、尺前後を三～四〇匹、四貫匁位（最高尺二寸以上）を釣り上げるのを直接見ました。仕掛は道糸一、五号針素一号、針五～六厘、餌は甘藷と馬鈴薯の練根あるいは細長く軽いセルロイド製を使用、餌の硬さ、浮木と重りとの関係、浮木下の長さ、合わせ方等が重要なポイントとなります。

最初軟か目の練餌で魚を集め、魚信があったら硬目にして釣り上げます。合わせ方は浮かし、けしこみ、横に倒す時、最初の引き等各人各様です。

釣り場は北山の池（亀田）六郷の池（新津在）釣鏡の池（鳥屋野）加茂新田の池など種々ありますが最近菱潟、鍋潟等でヘラ鮒が上がり、また前述の六郷の池のように阿賀川より移住した例もあり、後藤の池にもいることと思われます。

当町でも尺鮒を大分上げており、また数人が尺前後をボツボツ上げております。合わせ方、竿への感触、大漁の期待等なかなか捨てがたい釣りです。

愛鱗会々員及び釣り愛好者に是非おすすめ致したいと思います。日曜などにはどうぞ。（KW）

寺お講展覧会

期日　6月20・21・22・23日

各日共午前9時より午後8時まで

会場　公民館

◇綴方のふるさと　豊田正子
◇高校生自身　一、二、三年用　監修　海後宗臣　岩下富蔵
◇凄いやつ　城戸礼
◇鶏小屋の重役　源氏鶏太
◇私の行き方、考え方　松下幸之助
◇わたしのエルザ　ジョイ・アダムソ
◇年刊推理小説ベスト18編　ハリデイ
◇若草の歌　有吉佐和子
◇若草　富田常雄
◇華やかな死体　佐賀潜
◇女の年輪　吉屋信子
◇台所太平記　谷崎潤一郎
◇日本敵討ち異聞　長谷川伸
◇七人の敵あり　源氏鶏太
◇御存じ眠狂四郎　柴田錬三郎
◇ドライ・ママ　戸塚文子
◇異聞浪人記　滝口康彦
◇ファーブル昆虫記（一）　ファーブル
◇やはり神さまはいた（日本の厳窟王）　仁田義男

購入図書

◇新書　太閤記（三）　吉川英治
◇悪人列伝　一、二、三、四　海音寺潮五郎
◇子どもとつきあう法　品川不二郎
◇なぜ私はぐれたか　石原登　志賀信雄
◇若くて、悪くて、凄いこいつら（一）　柴田錬三郎
◇秘境の仏たち　鍔山英次
◇森繁日伝　森繁久弥
◇ひも　道明新兵衛
◇暮しの中の日本探検　犬養道子
◇ギリシヤ神話　串田孫一
◇史談、歴史の落し子　編　中部日本新聞社
◇女狐小判　陣出達郎
◇朝を待とう　樹下太郎

袋掛（五月句会）

小須戸町俳句同好会

先生も農工生も袋掛け　ひさ
竿に干す糸の真白き陽炎へり　芳人
雉子鳴かぬ山の虚しき茂りかな　杏水
春深く修学旅行の汽車溢れ　水月
赭に透いて楓一樹は五月風　紫川
早々と苗代寒むの風呂焚きし　喜雨
月おぼろ門田にしげく蛙聞く　一陽
知らぬ娘に話かけられ若菜摘み　竜朗
大きさの順につるして鯉幟り　流水
何にを見てなにを何を思ふや水芭蕉　照波
郭公の啼く山寺や青葉かげ